

令和 6 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター 芸術資源活用プロジェクト 実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトの タイトル	ジグでタぐる ～木材加工における治具の整理と活用～	
実施責任者 (申請代表者)	氏名	所属／学年／役職 (所属がない方は未記入)
	林 奈緒子	美術学部 共通工房 木材造形工房
実施期間	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日	
実施内容 ※申請書の「プロジェクトの概要」や「実施計画・方法」に記載した内容について、実際にどのようなことを実施したのかについて記載。 (500～600 字)	2024 年 4-6 月／リサーチとその展開 現場にある治具、実際にこれから作られていく治具を観察。結果的には 4-6 月に限らず、年間を通して行なった。 2024 年 7-9 月／治具開発の応用と実践・2024 年 8-10 月／ワークショップの実施 新しい治具というものに走るより前に、今ある治具をより深く知ることに関心を置くことにする。治具の持つ世界の豊かさを説明する術を探る。 治具の話をしていく展開の糸口として、具体的なものがあることが望ましいと考え、本の制作を決める。また作品制作に行く先に掲げることにする。 2024 年 11-12 月／保存資料の整備 治具の分類を吟味し、これまで語られてくることの少なかった治具について文章化を図る。 2025 年 1-3 月／アーカイブの作成 本という形式を模索する。治具の具体的な形を示すと同時に、なるべくコンパクトな形で治具の意味を知り、触れ合う契機としての大型本を制作。同時に作品の制作にも取り掛かり始める。	
実績報告 ※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。 (500～600 字) ※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。 (必須)	年間を通して、このプロジェクトが常に脳みその大きな部分を閉める状態となり、それが結果的に行く先々で自然と治具の話をしてしまうということにもなっていった。そうすると、美術とは一見関わりのない場からも面白がっていただけることが多く、それが最終的なアウトプットのかたちにも影響をもたらしていくことになった。 話や読み物として面白くとも、やはり具体的なかたちを伴って見せられてこそ手芸的・工芸的なものは力を増す。 具体的な治具を手に取りながら、話を深めていくにはどうすれば良いか模索した結果が今回出来上がってきた本である。 この制作活動を通じて、諸先輩方と語らえたのも大いに勉強になったし、またこういった活動をしているという大義を振りかざして日頃「企業秘密」になりがちな制作や治具作りのノウハウを垣間見させていただくこともできた。 次は現在まだ構想と準備段階である「治具作品」を見せることでまたあらたな対話が生まれてくることを祈念している。 最後になりましたが、このような機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。	

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。(必須ではありません)